



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# T工業株式会社(A)：奥山課長

### 1. 奥山総務課長の悩み

10

T工業株式会社静岡工場の奥山総務課長は、抑うつ症（精神科医の診断書による）で休職している部下の片倉係長の経過と復職のことで頭を痛めていた。

片倉係長は、本社の販売部に在籍していたが、1992年7月本人の出身地（静岡市）への転勤希望がかなえられて、この工場の総務課勤務となった。そして、前職（販売部）での業績が良かったこともあって、静岡工場への転勤に伴って係長に昇進した。

15

しかし、転勤して3ヶ月ほど経ったころに、片倉係長は身体の不調を訴え、仕事が思うように進められない状態になってしまった。内科さらに精神神経科を受診して、現在も入院加療中である。休職して、かれこれ1年が経過するが、片倉係長のあの明るい表情はまだ戻っていなかった。

だが、主治医（精神科）の話では、そろそろ復職できるまでに回復しているので、会社が受け入れの準備をして欲しいとのことであった。

20

奥山課長は、片倉係長の希望と、医師の指示および会社の状況を考慮にいれて、片倉係長の今後の仕事について検討中である。

### 2. T工業株式会社の概要とストレス・マネジメント体制

25

T工業株式会社は、業界で売上高では第2位に位置する伝統ある大手メーカーである。従業員数は約2万人弱で、名古屋本社を中心に国内に5つの工場、海外に7ヶ所の事業所がある。T工業株式会社は従業員の福利厚生には力を入れており、特に健康管理には深い配慮をしている。

30

---

このケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科における特別実習の成果としてまとめられたものであり、経営管理に関する適切あるいは不適切な処理を例示することを意図したものではない。

ケース作成は慶應義塾大学大学院経営管理研究科関本昌秀教授の指導のもとに、同研究科博士課程平田光子が行った。なお、社名および人名は仮名であり、来談者のプライバシー秘守義務から主題の理解に関係ない部分については一部変更した。

ケース作成にあたっては、T工業株式会社に絶大なご支援・ご協力をいただいたことをここに記すとともに、あらためて厚く御礼を申し上げます。